

Newsletter

NPO Nagoya Ryugakusei Net

No. 4

July 2023

緊急短期奨学金制度と 5月の募金活動について

大学院留学生が突発的で予測できない困難の発生に直面して、当初の留学・研究調査目的を達成することが困難になることがあります。Nagoya Ryugakusei Netでは、その場合に短期の緊急支援を行う制度（「緊急短期奨学金制度」）を備えています。しかし、当NPOはこの活動に充てる十分な資金を有していないために予算額が少なく、十分な制度とはなっていません。

2023年春に、がん治療のために予想外の医療費を負担しなければならなくなる見込みの大学院留学生がNPO事務局に相談されました。取り急ぎ、「緊急短期奨学金制度」から支援金を支給しましたが、がん治療となると、国民健康保険制度の適用があっても、手術費、入院費、放射線治療費など必要だと思われる医療費額は高額になり、3月に帰国を予定していた学生には3月以後の生活費も含めて支払うことができないと予想されました。

所属研究科の大学院留学生が中心となって募金活動が行われ、また、所属大学が用意する特別な奨学金が支払われました。当NPOでは、必要な医療関係費を補助するという趣旨で30万円を目標として、5月に募金活動を行いました。

5月の中旬に募金額が目標額に達しましたので、通院で放射線治療を受けていたご本人に連絡をして取り急ぎ30万円をご本人の口座に振り込みました。後日とても丁寧な礼状をいただきました。

寄付金は6月になっても寄せられ、総額453,000円に達しました。

他方、留学生には6月初旬に、突然17日までに帰国するという命令が届き、事務所を訪問されました。治療費を全額補助する十分な募金が集まったことをお伝えしましたところ、「十分にいただきましたので、これ以上は必要ありません。このようなご支援をいただけたとは考えてもいませんでした。皆様にお礼申し上げます。」とのことでした。

留学生は予定を繰上げて副作用診断を受けたうえで、17日に本国に戻り、元の職場に復帰することができました。

ご寄付額残額については特定目的の寄付金として趣旨を生かして「短期緊急時奨学金」制度の充実のための資金としたいと考えています。

この場をお借りして、ご寄付いただいた皆様に感謝申し上げます。

松浦 以津子（会員）



認定NPO法人を目指して

NPO Nagoya Ryugakusei Netは2020年12月の設立総会以来、コロナ禍という未曾有の困難な状況の中ではありましたが、留学生の支援のための活動を地道に継続してきました。当NPOではこの活動が一層大きくなることを目的として認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）の申請を目指しています。

認定NPO法人は高い公益認定基準に適合している場合のみ認められるため、社会的信頼が増し、組織運営の強化と

持続性に繋がります。また、税制上の優遇が受けられることにより、寄付を受け入れやすくなります。

認定NPO法人となるためのいくつかの条件を整えつつ、今後の活動をより大きく、強固で持続性のあるものとするため、現在奮闘中です。あと一歩で条件をクリアします。皆様の一層のお力添えをお願いいたします。

NPO Nagoya Ryugakusei Net 事務局

お知らせとおねがい

- * Nagoya Ryugakusei Netでは、これからも様々なイベントを企画する予定です。行ってみたいところ、やってみたいことなど、ご希望をどしどしお寄せください。
- * このNewsletterへのご意見、ご感想もお待ちしています。

連絡先は最後のページをご覧ください。

赤い羽根共同募金の助成による Explore Japan Program



Nagoya Ryugakusei Net は、赤い羽根共同募金の助成を受けて、2022年12月から Explore Japan Program を始めました。このプログラムは、大学院留学生に日本を理解して広がりのある留学体験をする機会を提供することが目的です。私たちは、これまで9回のイベントを開催し、多様な国から多様な専門の大学院留学生が毎回20名程度参加しています。

実施したイベントには、「地域の餅つき行事」(2022年12月)や「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」(2023年3月)のほか、シリーズ企画「名古屋の上下水道」などがあります。「名古屋の上下水道」では、大学院留学生は、浄水場と下水場の施設を訪問して専門家の説明を聞き、名古屋が木曾川の水をどのようにして浄水し、下水処理しているのかを見学しました。

これらのイベントは、多くが一日バスツアーです。赤い羽根共同募金の助成によって、バスの利用が可能になり、関係機関のご協力を得て、大学院留学生がキャンパスの外の日本を体験できる機会が大きく広がりました。ツアーの受入れ機関からは、入場料の免除、専門家による説明、職員の随行などのご援助をいただきました。

松浦 好治(会員)

空と宇宙博 岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館

GIFU-KAKAMIGAHARA AIR AND SPACE MUSEUM
2023年3月16日
2023年4月10日

日本の航空事業の
歴史を学ぶ



を受けました。早春の陽光が展示品に映し出され、未知への探求心が湧き上がりました。この訪問は知識の追求だけでなく、文化と思想の交流でもありました。この貴重な経験が私の心に深い印象を刻み、将来の学びと成長に大きな影響を与えると確信しています。

輝く航空と未来への憧れ

—岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の訪問記—

2023年の早春、私は世界各国からの留学生と共に岐阜かかみがはら航空宇宙博物館を訪れました。この博物館は壮大な殿堂であり、日本の航空事業の歴史と宇宙探査の栄光を展示しています。飛行機の翼が銀色に輝き、ロケットと火星車が未来の可能性を予感させました。ご案内くださる名古屋大学の教授先生と留学生たちと共に宇宙への憧れや技術について語り合いました。

言葉の壁を越えながら、異文化を体験し、世界の多様性に感銘を受けました。早春の陽光が展示品に映し出され、未知への探求心が湧き上がりました。この訪問は知識の追求だけでなく、文化と思想の交流でもありました。この貴重な経験が私の心に深い印象を刻み、将来の学びと成長に大きな影響を与えると確信しています。

ロウヤグアン(名古屋大学 医学研究科)

—イベント後に寄せられた感想を抜粋して掲載します。—

先輩方から「名古屋の水は極めてきれいなので、水道水をそのまま飲んでも良い」と言われて、驚いていました。それで、鍋屋上野浄水場の見学を通じて、その理由が分かりました。鍋屋上野浄水場は、水道法の下で、自然的な方法を利用しながら、木曾川の水から安全な水道水を作って、私たちの毎日の生活で使われる美味しい水を送り出しています。砂と石、レンガなどを使って上から下に行く流れで水を浄化する、その際に、下から上に上がる流れで浄水施設を洗うというアイデアは面白くて、現代化していると思われました。しかし、この施設は、近代に作られたものではなく、110年前に設立されてから、長年に渡って、名古屋の安全な水道水を(他の2つの施設とともに)担当しています。それで、モンゴルでは、社会問題になっている、水の問題の解決に貢献したいと考えました。(原文日本語)

ダシニヤム・ホラン(名古屋大学 法学研究科)

名古屋の貯水、浄水、配水システムがどのように作られたかを見ることのできたのは驚きでした。

私が関心を持った主な理由は、我が国が廃水の分離とリサイクル事業を行っているからです。私たちはまだ国家レベルで行うことはできていません。

しかし、どのようにすれば環境のために有益なことができるのか、アイデアを与えてくれました。(原文英語)

マ・サンドラ・モウ(名古屋大学 生命農学研究科)

名古屋の上下水道管理システムを見学できる素晴らしいイベントを企画していただき、ありがとうございました。多くのことを学びました。素晴らしい経験でした。(原文英語)

ラジア・ジョア(名古屋大学 国際開発研究科)

名古屋の上下水道 Part I 水の歴史資料館

2023年3月25日

Walk and Talk とタイアップ

先人達の知恵が詰まった
浄水場を見学



名古屋の上下水道 Part II 鍋屋上野浄水場と 下水道科学館見学会

2023年4月19日

名古屋の上下水道 Part III 名古屋の水源地を尋ねて

2023年8月7日に実施予定

都市計画とまち並保存

鳴海宿

2023年5月27日

Walk and Talk とタイアップ

名古屋都市センターと有松の町並

2023年6月8日



鳴海宿山車蔵の前で 有松絞り体験 作品とともに

名古屋都市センターの最初の講義では、第二次世界大戦後の都市の再編成と開発の方針が印象に残った。土地調整（工業地域や緑地など）やインフラの充実など、重要な都市開発政策が簡潔に伝わってきた。また、道路や公園が復興前の2倍になるなど、プロジェクトの目覚ましい成果が印象に残った。さらに、～センターの本部で街づくりの詳細なモデルを見学する機会があり、街づくりのプロセスに対する理解がさらに深まった。（原文英語）

ヴ・ヒエン（名古屋大学 法学研究科）

名古屋の文化遺産を守りながら、名古屋の都市開発について考えることができました。絞り染めのワークショップは特に魅力的で、この伝統芸術に触れることができました。名古屋留学生ネット、名古屋都市研究センター、有松町の主催者の方々は、信じられないほど歓迎してくださり、遺産を守ることに情熱を注いでくださいました。この機会に感謝するとともに、日本の豊かな歴史と伝統をさらに探求する今後のイベントを楽しみにしています。

（原文英語）クウェン・トラン（名古屋大学 法学研究科）

四日市公害の経験に学ぶ

2023年7月28日に実施



帰国後の私の仕事

私は、JICAの人材育成奨学計画（JDS）のフェローとして名古屋大学の比較法学専攻修士課程を修了しました（2019-2021年）。帰国後は、ベトナム司法省民事判決執行局（CJE）の主任審査官に復帰して働いています。私の職務は、国際的な司法協力やCJEが担当する分野の司法・行政改革について、司法省のリーダーに助言することです。

現在、ベトナムは、国際的な司法協力の分野で、多くの先進国政府や組織から注目を浴びています。司法省は、海外のパートナーの目的や強みを考慮して、優先課題を決めなければなりません。ベトナム政府の最近の関心事は、ベトナムの社会主義的法治国家実現を2030-2045年の間に目指すという計画に沿って、包括的・整合的・実施可能な法体制を構築し、効果的に法執行を行うという点にあります。司法・行政改革は、この中心的課題に取り組む必要があります。そのため、私は、複数の職務を精一杯並行して進めています。支援を有効に活用できる協力計画を作ることも必要です。例えば、私たちは、研究調査をし、報告書をまとめ、国際会議を組織・出席して知識や経験の交流を図り、政策や法案についてのコメントを集めます。司法省職員の意識と能力を高めるための研修旅行や研修などの企画も立てています。私が仕事をする中で一番有難いと思うのは、名古屋大学の先生方やJICAのプロジェクトで知り合った専門家の方々と協力できることです。名古屋大学で学んだ比較法の知識も仕事の中で活用できています。

私の職務で困っていることがあります。民事判決執行局（CJE）の業務は実務中心ですが、私が参考にできる詳しい分析をした英語の学術論文は多くありません。例えば、諸外国のCJE効率性指標についての情報は、ほとんどありません。Nagoya Ryugakusei Netのみなさんの中でCJEに関心がおありの方があれば、是非ご連絡ください。情報交換できれば有難いです。私のEメールはngannt.moj@gmail.comです。ご連絡をお待ちしています。グエン チ ガン

（ベトナム法務省民事判決執行局（CJE））



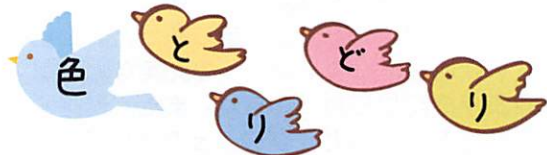
国分教授、筆者、村上教授、トゥヒエン氏
ベトナム法務省で行われた技術会議の後で（2023年3月）



自転車が必要な方 お貸しします

自転車を寄付していただきました。必要な方はどうぞご利用ください。長期貸し出しにも応じます。ご希望の方は、NPO事務局までご連絡ください。





このコラムでは、NPO Nagoya Ryugakusei Net を支援してくださっているみなさんにご登場いただき、いろいろな思いや意見、ご自身の素顔など自由に描いていただきます。まさに色とりどりの内容が毎号はばたきます。どうぞご期待ください。第4号は賛助会員の中島謙さんをご紹介します。

限られた範囲の言葉の中で

私は名古屋留学生ネットの賛助会員ですが、英語を聞いたり話したりが不得意です。なので、留学生の方とのやりとりは限られた言語表現の範囲内のものになります。しかし、限られた範囲のやりとりだからこそ印象に残ることもあります。

初夏に名古屋の鳴海宿があった地域を散策するイベントに参加した時、日本語がかなり堪能なベトナムからの留学生の方といろいろ話げできました。話がはずんだ勢いで「ベトナムではみんなベトナム戦争のことを勉強しますか」と私は彼女に尋ねました。すると彼女は、お互いに限られた言語理解の範囲で端的に何を話そうかと一瞬考えをめぐらすような様子でした。そして彼女は私に「ベトナム戦争については個人の間でも考えが異なりますし、ベトナムと近隣諸国の間でも考えが異なります。なので、そのことを話題にするのは結構気を使うのです」という主旨のことを話してくれました。

それを聞いた時、日本という島国で平和に漫然と暮らしていると気づかないことを彼女から教えられた気持ちになりました。このように留学生の方との限られたやり取りの中でもいろいろと気づかされることもあります。

自分自身の勉強も兼ねる気持ちでこれからもイベントなどに参加していきたいと思います。

中島 謙 (会員)



鳴海宿満願寺境内にて 筆者後列右から2番目



2023.3.1~これまで

◆運営◆

2023.7.3 名古屋市に役員変更等届書を提出

◆常設事業◆

大学院留学生に対する日本語支援プログラムについて
2023.4.27 東京外国語大学のボランティア対応部門
ボランティア活動スペースVOLASから
連絡あり。

当NPOの活動、支援についての準備を検討の結果、
外大学生のボランティアを募集することについて、協力
したいとの回答あり、制度設計を始めることとした。
担当 阿部会員、柴田会員、松浦好会員

◆個別事業◆

2 頁及び 3 頁の記事参照

◆活動環境の整備◆

2023.4.28 名古屋市市民活動センターに条例個別指定を
受け認定NPO法人になるための相談をした。

2023.5.11 NPO事務所外壁に広報用看板を設置した。



コロナウイルス対策から解放されて、徐々に自由な活動ができるようになってきました。留学生の皆さんと一緒に施設の見学へ出かけたり、NPOの事務所で直接、話を聞くこともこれまで以上にできるようになっています。Newsletter第4号では、そのあたりも伝わればと思っています。(編集担当:柴田由紀、小崎和子)

●連絡先

NPO Nagoya Ryugakusei Net

〒466-0804 名古屋市昭和区宮東町37

MAIL office@nagoyaryunet.org

TEL 052-734-3678

https://nagoyaryunet.org



●交通アクセス

名古屋市営地下鉄「名古屋大学」駅1番出口よりグリーンベルトに沿って西へ5分 西通用口へ 西通用口から西へ徒歩2分。
「伊勝小学校北」の信号の手前で右折 左に一本目を過ぎて左側2軒目 2階建ての家



●地図

